

業種	運輸業
活用分野	運送業務車の管理
テクノロジー	スマートフォン、ICチップ、Bluetooth

スマホと車載機の連携で安全性と効率を向上

幅広い物流事業を担う日本通運では、人(スマートフォン)と車両(車載機)と機能(システム)を結び付ける、新しいオペレーション支援システムを構築した。

ICチップによる出退勤の記録や、運転者・作業者が持つスマートフォンでは法令に沿った勤務実態の把握、営業受付デー

と連携できるフロントシステムなどを活用。

スマートフォンと車載機の間はBluetoothでつなぎ、これまで車載機側で行っていた登録作業をスマートフォンに一元化。操作性の向上を図った。データはNTTドコモの閉域網より同社のサーバ(プライベートクラウド)に蓄積される。

導入後は、車両の動態管理、作業報告、安全運転状況、車両運行費用やCO₂排出量、運転者の勤務状況などをリアルタイムに把握することが可能となった。また、ドライブレコーダーで運転者ごとの運転特性を把握することで、危険予知トレーニングや教育指導を充実させている。

これらの結果、業務の効率化、安全性の向上、燃費消費率の改善など様々な効果を生んでいる。蓄積された膨大なデータは業務改善や経営の意思決定に活かしていく計画である。

さらに、当社が力を入れている国際物流事業における多国間輸送に対応するため、国境をまたいだ通信試験を進め、2015年よりベトナム・ラオス・カンボジアにおいてサービスを開始した。

図 スマホと車載機が連携するオペレーション支援システム

